

# 日中翻訳

——「天声人語」(2017.08.07)の中国語訳を例に——

## 続 三 義

日本『朝日新聞』の「天声人語」は筆者の好きなコラムである。朝日新聞中文網では、2012年12月11日から「天声人語」の中国語訳を掲載し始め、中国の読者に「天声人語」を紹介し、その後、繁体字版も付け、台湾など、中国語の繁体字圏の読者にも紹介するようになった。これはとてもよい試みである。しかし、これまで筆者が分析・指摘したように、その中国語訳における中国語表現には検討すべき箇所が多く存した。そのせいか、朝日新聞社は、2017年4月5日を機に中文網版の改訂を行い、それまでの「天声人語」の中国語訳が見られなくなった。ちょっと残念に思う次第である。リニューアル後の朝日新聞網では、また「天声人語」の中国語訳を掲載するようになったが、頻度は少なくなった。ここで取り上げるのは、2017年8月7日の「スマホ・ゾンビに罰金」の中国語訳《勿成手机僵尸 罚款不留情》(2017年8月20日、以下「訳文」とする)である。

翻訳は、言葉の意味を理解することが前提である。多くの場合、先人の研究成果——辞書を使えば、基本的な語彙の問題はおおよそ解決できる。しかし、辞書ばかりに頼ってもいけない。本稿は、基本的に中国語・日本語、および中日一日中辞書の釈義や説明などを利用し、辞書の相互参照などを通じて、語彙の意味を確認・分析し、これによって、「訳文」の足りなさを指摘する。辞書の説明だけで解決できない問題は、筆者の独特の分析によって解説する。いくつかの語彙(本稿では「語彙」について厳しい定義を下さない)の問題を解決した後、表現がポテ

ンシャルキャリアルかの問題、動作主体の問題、そして文の論理性の問題について簡単に述べる。付録には、原文と「訳文」そして筆者の翻訳案も添える。

### 1. 語彙の問題

#### (1) “哪里”

論述をしやすくするため、まず「天声人語」の第一段とその「訳文」を下に引用しておく。

ゾンビ映画の何が怖いかと言えば、人間の姿をしているのに人間らしい思考も感情もないことだ。うつろな目をして集団で動き回る。そんな姿を連想するからだろう、「歩きスマホ」は英語で「スマートフォン・ゾンビ」と言うらしい

说起僵尸电影哪里恐怖，莫过于那些酷似人类外形的生物却没有人类的思想和感情。呆滞的眼神，成群结队地到处游荡。如此场景应该会让你联想到什么吧，“边走路边玩手机”的英文译法似乎就是“智能手机·僵尸”。

日本語の原文は「何が怖いか」となっていて、「何」は普通中国語では“什么”と対応している。“哪里恐怖”なら、日本語に戻すと、「どこが怖いか」ということになる。「どこ」は場所の意味で、映画のどの場所が怖いかという意味である。日本語の「何」はその内容が問題になるが、ここでは、具体的なストーリーの問題ではなく、むしろ、その内容構成のどの部分が怖いかとい

う意味である。

しかし、中国語の“哪里”はあくまでも具体的な場所の意味で、内容的にどの部分かという意味ではない。“哪里”に似た意味の言葉は中国語にはもう1語、“什么地方”というのがある。この“什么地方”は日本語の「どこ」という意味もあれば、「どういうところ」「どんなところ」という意味もある。「どこへ行くか」という日本語に対して、中国語では、“哪里”と“什么地方”の両方に対応できるが、大学や役所などの一般的な機能を表す場所を聞く場合は、“哪里”でいいが、具体的な内容として、「どんな場所」かを聞く場合は、“什么地方”でなければならない。したがって、内容的にどんなところが怖いかを聞く場合、“哪里”よりも“什么地方”の方がいい。ここでは、後者の方が訳語としてフィットする。

それから、「何が怖い」を“哪里恐怖”と訳したら、映画のどの場面、どのシーンが怖いかということになる。日本語の「何」が内容を指すことから分かるように、中国語の“哪里”では訳出できないニュアンスがある。

さらに、日本語の形容詞文に対して、中国語の形容詞文は、“哪里恐怖”だけでは文として成り立ちにくい。このような場合、使役文にすると、中国語として落ち着くことがある。例えば、“令人恐怖”“最令人恐怖”などにすれば、落ち着いた表現となる。

## (2) “酷似人类外形”

原文の「人間の姿をしている」の訳語である。人間や生物、しいて言えば物体の形を述べる時、日本語では、「～の姿をしている」という表現を用いる。ここの「人間の姿をしている」も、「人間の形をしている」という意味である。「訳文」の“酷似～外形”という表現は、「～の外形に酷似している/非常に似ている」または「～のような外形をしている」という意味だが、これでは原文の意味と違ってくる。「～の姿をしている」の意味は、「～の形をしている」とい

う意味に通じるが、「～の外形に酷似している/非常に似ている」では別の意味になる。

「～の姿をしている」というのはその形をしているのであって、“酷似”，つまり「非常に似ている」という意味ではない。ここでは、「姿」を“様子”に対応させ、“长着人的样子”，“长着人的模样”と訳す。もし、日本語の表現が、「～のような姿をしている」であれば、“样子像人”としてもいい。いくら何でも、“酷似～外形”のような言い方は良くない。

## (3) “生物”

原文にない言葉である。日本語にも「生物」という語があり、『岩波国語辞典』第七版(岩波書店。以下『岩波』とする)では、「生きて活動し繁殖するもの。動物・植物の総称。」と説明している。少なくとも、「ゾンビ」は「生物」とは考えられない。もともと原文にない言葉をわざわざここで出す必要もない。おそらく、「人間の姿をしている」を“酷似人类外形”としたため、前述のように、後ろにそれを受ける言葉がないと落ち着かず、それでこの「生物」で間に合わせようとしたのだろう。ここではっきり言えることは、「人間らしい思考も感情もない」のは「ゾンビ」であって、別に「生物」かどうかの問題ではない。ゾンビをわざわざ「生物」にする必要はない。

## (4) “场景”

日本語の「そんな姿」の中の「姿」の訳であろう。中国語の“场景”は普通、日本語の「場面」や「シーン」に当たる。もし日本語の「姿」に当たる中国語がなければ、この「場面」や「シーン」に当たる“场景”を使ってもあながち間違いではないが、上述のように「姿」は大体中国語の“样子”か“模样”に当たるので、ここでも、“样子”と訳しておけば問題ない。あくまでも、連想するその姿を「英語では～」と述べているのだから、“场景”では意味をなさない。

### (5) “英文译法”

“英文译法”「英訳」という言葉は、原文に無い言葉で、原文には「英語」という言葉しかない。ここの「訳文」だと、日本語の「歩きスマホ」の英訳は「スマートフォン・ゾンビ」という意味になってしまう。話し手・「天声人語」の作者は、別にここで日本語では「歩きスマホ」というが、その英訳はどうかということを行っているのではない。むしろ、日本語の「歩きスマホ」の別の言い方を、オリジナルな英語で、すなわち「スマートフォン・ゾンビ」で表現し、論を進めようとしているだけである。“英文译法”が出てきたら、話の土台がなくなってしまう。

ここで挙げた“场景”と“英文译法”などの誤訳は、全体的に、原文の「そんな姿を連想するからだろう、『歩きスマホ』は英語で『スマートフォン・ゾンビ』と言うらしい」という文全体の意味が読み取れていないことからきている。上述のように、この文では、「そんな姿を連想するから、『歩きスマホ』は英語で『スマートフォン・ゾンビ』と言う」ということを言っているだけであって、“场景”も“英文译法”も出番はないのである。

### (6) “请出”

論述をしやすくするため、「天声人語」の第二段とその「訳文」を下に引用しておく。

さて、ゾンビたちを横断歩道から締め出す条例がハワイのホノルル市で制定された。10月下旬からは、スマホを使いながら横断すると15ドル(約1650円)~35ドルの罰金が科され、繰り返すと金額が上がる。画面に目を奪われて事故にあうのを防ぐためだ

且说, 美国夏威夷火奴鲁鲁市已经制定出把僵尸们请出人行横道的条例法规。从10月下旬起, 若在通过人行横道时使用智能手机, 会被处以15美元(约合人民币100元)至35

美元(约合人民币234元)的罚款。若反复出现该行为, 罚款金额则会上涨。此举目的是为防止行人盯着手机屏幕而遭遇交通事故。

普通の辞書に見出し語として載っていない、中国語の“请出”という慣用的な言い方は、字面では、「どうぞ出てください」、「出て行ってもらおう」という意味である。“把~请出~”で、悪者や厄介者がある場所から出て行くようにさせる、という意味になる。したがって、ここでの使い方は間違いとは言えない。ただ、少し嫌味を込めた使い方になっているので、ここでは、その嫌味を特に出さないようにした方がよさそうである。日本語の「締め出す」は辞書では、“关在门外”“不许入内”“排斥”“排挤”(『日中辞典』講談社。以下『日中』)などという訳語を当てているが、いずれもぴったりにない。だから、「訳文」では“请出”というちょっとひねくれた言葉を使ったのだろう。「締め出す」は「~から追い出す」という意味に近い。ここでは、“从~赶出去”「~から追い出す」と訳しておけば大丈夫だろう。

### (7) “反复出现该行为”

これは「繰り返す」の「訳文」である。「繰り返す」という日本語は難しい言葉ではない。辞書では、“反复”“重复”(『日中』)と訳語を当てている。ここでは、同じ条例違反行為を繰り返す、という意味である。原文では、「繰り返す」という動詞だけで、動作の対象を示す目的語はない。しかし、「訳文」では、「繰り返す」の目的語“该行为”「その行為」を示し、“反复出现该行为”としている。これは「繰り返しその行為が現れる」という意味である。ここでの問題点の1つは、“出现该行为”という動詞“出现”と目的語“行为”との組み合わせ(連語)が文法的に正しくないことである。もう1つは、原文で、条例違反の行為を述べているのに、「訳文」で「その行為」という痛くもかゆくもない言葉を使い、当事者である条例違反者の責任感

を全然感じさせない、あまりにも客観的な叙述になっていることである。これでは原文のニュアンスが伝わらない。

繰り返し条例違反や法律違反を行うことは、中国語にも、日本語の「再犯」と同形語の“再犯”がある。『日中』では、「繰り返す」の例文の中で、“多次”という言葉を使っている。この語も悪くない。“多次违犯”なら問題ない。

#### (8) “多数”

論述をしやすくするため、「天声人語」の第三段とその「訳文」を下に引用しておく。

読書しながら歩く人は多くはないが、歩きスマホはあつという間に広がった。その行為を「非人類的」とまで言うのが作家の藤原智美(ともみ)さんである

一边读书一边走路的人尚不在多数，走路时玩手机却在顷刻之间扩散开来。作家藤原智美甚至用“非人類的”一词来形容这种现象。

“一边读书一边走路”の使い方に関しては、ここでは議論しないことにする。ここでは、まず“尚不在多数”について述べる。感覚的に、「多い」は“多数”と理解できるが、形容詞としての「多い」と名詞としての“多数”とはやはり異なる。人間または出来事が多い、という表現をする際、多いからと言って、必ずしも「多数」という表現が可能であるとは限らない。“多数”を用いることができるのは、ある比較範囲の中で、多数か少数かに分けることができる場合である。しかし、ここでは、そのある比較範囲の中での話ではなく、単にそのような現象が多いか少ないかを述べているだけである。したがって、“多数”という言い方は良くない。素直に“多”で表現すればいい。

#### (9) “扩散”

これは原文の「広がる」という語の翻訳であ

る。「広がる」は意味的には難しい言葉ではない。ただ文脈によっては、中国語で表現するとき、問題になる場合がある。中国語の“扩散”は普通、自動詞として使われるが、その主体は大体、“影响”とか“毒素”(《现代汉语词典》第6版、商務印書館。以下《现汉》とする)のようなもので、ここの「歩きスマホ」のような社会的な現象に対して“扩散”という言葉を使うのはあまり適当ではない。「広がる」に関して、『日中』では、その関係項目に、次のような訳語を当てている。

1 [広くなる] 大; 展开; 变宽。

2 [広範囲に及ぶ] 扩大; 传开; 蔓延。

ここでは、2の意味であろう。しかし、日本語の「歩きスマホ」という社会的な現象に対する表現なので、ここの訳語のどれを見ても、あまりふさわしいとは言えない。この「歩きスマホ」という社会的な現象は、「訳文」では、上の方で“反复出现该行为”として、つまり“行为”としている。しかし、“行为”などは“扩散”することができない。そして、「訳文」の次の文末の言葉を見ると、これを“現象”とも考えているようである。いずれにしても、“扩散”という表現を使うことはできない。中国語の表現としては、“现象”なら“蔓延”でもいいが、ここでは、“普及”「普及」という言葉を使えばよからう。

#### (10) “脑海”

論述をしやすくするため、「天声人語」の第四段とその「訳文」を下に引用しておく。

「人間は歩いているとき、周囲の状況に目を配り、頭の中ではさまざまな思いや考えをめぐらす」。そんな二足歩行を始めて以来のあり方が変わってしまったと、著書『スマホ断食』で述べる。社会がスマホ一辺倒になり、一人で考えることから遠ざかっていくと警告する

“人在走路时，眼睛会观察周围的情况，

脑海中会随之浮现各种思绪和想法”。藤原在著作《智能手机绝食》(暂译, 日文为: スマホ断食)中叙述道, 这种自双脚站立行走以来的走路状态已经发生改变。并警告称, 社会正偏向智能手机的一方, 与独立思考渐行渐远。

まず, “脑海”について考えてみよう。原文は「頭の中」となっている。中国語の“脑海”は意味的には頭の中と同じと考えていい。しかし, 文体によっては, 使っていい使ってはいけないの問題がある。文学作品なら, “脑海”を使ってもいいが, 社会学または生物学的に言うときは, この“脑海”を使ってはいけない。ここでは, 人間を社会的, または人類学的に述べているのだから, “脑海”ではなく, “头脑”「頭腦」あるいは“腦子”「腦」という言葉を使えば, 問題ない。

#### (11) “随之浮现”

日本語の「人間は歩いているとき, 周囲の状況に目を配り, 頭の中ではさまざまな思いや考えをめぐらす」で述べていることはそれほど難しくなく。つまり, 人間は歩きながら, いろいろと考えたりすることを述べているだけである。「訳文」ではこの“随之浮现”「それに従って現れる/現す」という表現を使っている。この“之”は動詞“随”の目的語と考えてもいいが, 文脈から言えば, 前文の“眼睛会观察周围的情况”「目で周りの状況を観察する」を指す。原文の「人間は歩いているとき, 周囲の状況に目を配り, 頭の中ではさまざまな思いや考えをめぐらす」は, 人間が歩いているとき, 2つの行為あるいは活動を行うことを述べているが, 後者の「頭の中ではさまざまな思いや考えをめぐらす」という行動が, 前者の「周囲の状況に目を配る」という行動に従うなどとは言っていない。もしこの“随之浮现”で言い表すとすると, 「頭の中ではさまざまな思いや考えをめぐらす」ことはすべてその「周囲の状況に従って」

展開するという意味になる。この“随之”という語は余計である。

#### (12) “双脚站立行走”

日本語の「二足歩行」の翻訳である。この日本語を素直に中国語に訳せば, “双脚行走”あるいは“两条腿走路”の一言に尽きる。しかし, 「訳文」では“双脚站立行走”となっている。この中国語の表現は, 「二本の足で立って歩く」, つまり, 「立つ」と「歩く」という二つの動詞を使って表現している。結論から言えば, これはただの言葉遣いの間違いである。訳者はこの人間の進化過程を表す普通の言い方を捻じ曲げている。この人間の進化過程のことは, 生物学的には“直立行走”と言う。中国語では“双脚”という言葉を入れなくてもいい。

#### (13) “以此确认自己”

論述をしやすくするため, 「天声人語」の第五段とその「訳文」を下に引用しておく。

どうすればいいか。藤原さんの提案は, 3日間の「スマホ断ち」である。小さな機械に魂を奪われゾンビ化していないか, 自分で確かめる機会となろう。3日は長すぎると感じるの, すでに心が支配されているせいか

这该如何是好? 藤原の提案是“断智能手机”3天。以此确认自己是否已经变成被小小机器夺走魂魄的僵尸。当感到3天太过漫长时, 你的心智是否已经被其左右了呢?

“以此确认自己”「これを以って自分が~を確認する」は「自分で確かめる」の訳であろう。原文には, “以此”「これで/これを以って」という言葉はない。そして, 「自分で確かめる」は「訳文」では「自分が~を確認する」となっている。意味的には間違いとはいいいがたいが, 原文の「自分で」という意味が消えている。「自分で確かめる」は“自我确认”という言葉を使

えばいい。

#### (14) “回顾历史”

論述をしやすくするため、「天声人語」の最終段とその「訳文」を下に引用しておく。

振り返ればテレビも漫画も、思考力を奪うと批判された歴史がある。スマホも心配しすぎだったということになるのかどうか。答えが出るのは、幼時から小さな画面に触れる世代が大人になるときだろうか。

回顾历史，电视也好漫画也罢，都曾被批判会剥夺人类的思考能力。而现在的我们是否对智能手机表现地过分焦虑了呢？答案恐怕要等到自儿时起便触碰小小屏幕的一辈人，成长为大人后才能一见分晓吧。

“回顾历史”は「振り返れば」の訳である。日本語の「振り返る」は『日中』では次のように説明し、訳語を当てている。

- 1 [振り向く] 回头；转头。
- 2 [回顧する] 回顾；回想。

ここでは、2の「回顧する」という意味なので、中国語は、日本語と同義語の“回顾”を使えば問題ない。「訳文」の“回顾历史”もまんざら誤訳とは言えないので、むしろ問題は“历史”の方だろう。中国語の“历史”はほとんど日本語の「歴史」と同義であると考えられるが、やはり微妙な使い方の違いがある。原文では、後文で「テレビも漫画も、思考力を奪うと批判された歴史がある」と言っているが、たかが「テレビや漫画」の歴史にすぎないのだから、ここ数十年の間の出来事であっても、中国語の“历史”が表すような歴史的な出来事ではないだろう。そして、原文の「テレビも漫画も、思考力を奪うと批判された歴史がある」は、その修飾語で規定しているような、限られた「過去の出来事」という意味である。「訳文」のように、“回顾历史”「歴史を振り返れば」では、いかにも大げさな感じがする。

#### (15) “剥夺”

日本語の「奪う」の訳である。「奪う」に関して、『日中』では次のように説明し、訳語を当てている。

- 1 [力づくで取る] 抢；夺；夺取。
- 2 [心などを] 吸引住；迷人。

原文の「思考力を奪う」という表現は、『日中』の1の意味に相当するが、あくまでも擬人化したものなので、“奪”などで表現することもできるが、ここでは“夺走”を用いればいい。しかし、「訳文」の“剥夺”はどういう意味で、どういう使い方があるだろうか。『中日大辞典』第三版(大修館書店。以下『中日大』)では、“剥夺”について、次のように説明し、訳語を当てている。

- ①(法律に基づいて) 剥夺する。財産や権利などをはぎとる。②(強制的な方法で) 収奪する。奪いとる。

②に関しては、『中日大』は“残酷地剥夺了她的自由和幸福”「彼女の自由と幸福を残酷にも奪いとった」という用例を挙げている。

「力づくで取る」という意味なら、なんでも目的語になるだろうが、「能力」というその人間に備わっているものについては、少なくとも中国語では“剥夺”という言葉を使うのはあまり適当ではない。“剥夺～能力”という動詞述語と名詞目的語の組み合わせ(連語)は成り立たない。

#### (16) “地”

「訳文」では、“而现在的我们是否对智能手机表现地过分焦虑了呢?”と、“表现地过分焦虑”という組み合わせの中で“地”という助詞を使っている。中国語の構造助詞には“的”“地”“得”の3つがある。この3つの構造助詞には、それぞれ違った文法的意味がある。“的”は主に名詞を修飾し、連体修飾語を表す際に使われる。“地”は動詞などを修飾し、連用修飾語を示すのに用いられる。“得”は中国語文法の中でも特別に文成分を修飾する役割を担っていて、動

詞や形容詞と「補語」との接続の役割を果たす。ここでの「表現」と後続の「過分焦慮」との関係は、「表現」が連用修飾語として「過分焦慮」という形容詞句を修飾しているのではなく、「過分焦慮」が「表現」の程度を表している。すなわち、「過分焦慮」が動詞「表現」の補語として働いている。したがって、この構造助詞は「得」でなければならない。

## 2、表現がポテンシャルカリアルか

第2章では、表現がポテンシャルカリアルかについて述べる。

### (17) “应该会”

ここは第1段落で一度触れたところであるが、原文の「そんな姿を連想するからだろう、『歩きスマホ』は英語で『スマートフォン・ゾンビ』と言うらしい」は、英語でなぜ「歩きスマホ」のことを「スマートフォン・ゾンビ」と言うかという、それはゾンビの姿を連想するからである、ということ述べている。「だろう」と「らしい」という話し手・「天声人語」の作者の判断というモダリティを示す言葉を除けば、この文は「そんな姿を連想するから、『歩きスマホ』は英語で『スマートフォン・ゾンビ』と言う」ということになり、全くのリアルな推理の結果を表している。しかし、「訳文」の“应该会让你联想到什么吧”は、「あなたに何か連想させるだろう/べき/はずだ」という意味なので、あくまでも推測、つまりポテンシャルな表現である。

## 3、動作主体の問題

第3章では、動作主体の問題に触れてみる。

### (18) “你”

これも上で第1段落を分析した際すでに触れているが、原文の「そんな姿を連想するからだろう」について、「訳文」は“如此场景应该会让你联想到什么吧”となっている。“会让你联

想~吧”，つまり「あなたに~連想させるだろう/べき/はずだ」では、「連想する」主体は“你”「あなた」となっている。後続の文を読めば分かるように、「英語では」となっているから、ここは英語を母語とする人たちの連想である。これを“你”「あなた」という二人称（ここではもちろん、必ずしも特定した二人称ではなく、不特定の人を指すが）にしたのでは、意味が分からなくなる。

## 4、文の論理性

第4章では、文の論理性について簡単に触れる。文の論理性は文章表現の最も肝心なところである。そのため、ベテランの編集者は原文の意味がよく分からなくても、論理性の観点から、訳文の間違いを的確に指摘することができると言われている。

次の「訳文」を見てみよう。

### (19) “那些酷似人类外形的生物却没有人类的思想 and 感情”

上で“哪里”について述べた時、詳しく説明しなかったが、翻訳において、中国語文の論理性の問題も大きな問題になる。

ゾンビ映画の何が怖いかと言えば、人間の姿をしているのに人間らしい思考も感情もないことだ。

说起僵尸电影哪里恐怖，莫过于那些酷似人类外形的生物却没有人类的思想 and 感情。

原文では、「ゾンビ映画の何が怖いか」という設問に対する答えは「~ことだ」で、非常に素直な回答である。これに対して、「訳文」では、“僵尸电影哪里恐怖”「ゾンビ映画のどこが怖いか」という問いかけに対して、“那些酷似人类外形的生物却没有人类的思想 and 感情”，つまり“那些~生物~没有~”で、「それらの~生物が~ない」と答えている。“那些酷似人类外形的生物却没有人类的思想 and 感情”の意味について

は上述のとおりであるが、ここで問題にしたいのは、この文の前文と後文の中の主体のことである。日本語の前文では、「ゾンビ映画」について問題提起をしているが、後文では、前文を受け継いで主体、つまり「ゾンビ」を省略している。これに対して、「訳文」では後文で“那些酷似人类外形的生物”と主体を指し示している。つまり、前後文で違った主体を出している。日本語原文で、省略という形で主体を示しているのは全く問題ないが、「訳文」で、後文の“那些酷似人类外形的生物”が指し示している主体はどう考えても、前文の「ゾンビ」ではない。中国語では、後続の文で、前文で出した主体を繰り返す必要がある場合が多く、しかも普通、代名詞で示すだけでよい場合が多い。ここでも、“那些～生物”と原文に無い言葉で言い換えるより、指示代名詞の“它们”を用いた方がいい。こうすれば、論理関係がはっきりする。

しかし、この「訳文」のより大きな問題は、文の構造上の問題である。つまり、後文の“那些酷似人类外形的生物却没有人类的思想 and 感情”の中で、逆接続詞の“却”を用いていることである。接続詞“却”は、普通2つの小文・分文を接続して、前後文の逆説的な意味関係を表す。しかし、ここの“那些酷似人类外形的生物却没有人类的思想 and 感情”は、“却”の前が、“那些酷似人类外形的生物”となっていて、これは連体修飾語成分“那些酷似人类外形的”と名詞“生物”の組み合わせ、つまり、1つの連語・詞組であり、分文ではない。したがって、“那些酷似人类外形的生物却没有人类的思想 and 感情”全体は、主語と述語の関係であり、逆接を表す接続詞“却”の出番はない。この接続詞の使用によって、“那些酷似人类外形的生物却没有人类的思想 and 感情”「それらの人間の外形に酷似している生物はかえって人類の思想と感情を持っていない」が宙に浮き、論理関係が破綻している。

## (20) “你的心智是否已经被其左右了呢?”

次の文も、論理性の問題がある。第5段落にある言葉である。

当感到3天太过漫长时，你的心智是否已经被其左右了呢?

これは「3日は長すぎると感じるのは、すでに心が支配されているせいか」の訳であるが、「訳文」は「3日は長すぎると感じる時、あなたの心はすでに支配されているでしょうかね」という意味である。原文は、「～のは～せい」となっている。そのような結果は、このような原因によるものだ、という原因と結果を表している。しかし、「訳文」の意味は、「～時、～でしょうかね」の前文で、ある時点「～時」を示し、後文で、「諾否文」というあやふやな不確かな断定で問いかけている。

この問題は、おそらく、文末の“是否～呢”にある。原文の「3日は長すぎると感じるのは、すでに心が支配されているせいか」の構造は、「『3日は長すぎると感じるのは、すでに心が支配されているせい』か」となっていて、終助詞の「か」は、前の原因・結果構文の確実性について述べている。すなわち、ここの不確実性を表す「か」は、できごと全体に対するものである。しかし、「訳文」の“你的心智是否已经被其左右了呢?”の中における不確実性を表す“是否～呢?”は、述語動詞“被其左右”にしかかからない。つまり、「それに左右されたでしょうかね」という意味になる。ここの中国語表現は、「訳文」の言葉を使って言い換えるとすれば、“你的心智是否已经被其左右了呢?”ではなく、“是否你的心智已经被其左右了呢?”となろう。

## 5, 結び

本稿では、「天声人語」「スマホ・ゾンビに罰金」の「訳文」について、“哪里”、“酷似人类外形”、“生物”、“场景”、“英文译法”、“请出”、“反复出现该行为”、“多数”、“扩散”、“脑海”、

“随之浮现”，“双脚站立行走”，“以此确认自己”，“回顾历史”，“剥夺”などの語彙的な問題，そして文法的な“地”の使い方の問題について論じた。表現がポテンシャルカリアルかの問題，動作主体の問題，そして文の論理性の問題についても簡単に述べた。

翻訳は総合的な作業である。読者の皆様のご参考になればと切に願う次第である。

#### <参考文献>

辞書類略。

- 続三義 (2010) 「日中逐次通訳について——通訳の試験問題から」『アジア文化研究所研究年報』2009年 (第44), 2010年 2月
- (2013) 「日中翻訳——『天声人語』(2012.7.11)の中国語訳を分析する」『日中言語対照研究論集』(第15) 白帝社
- (2014) 「日中翻訳について——『天声人語』(2012.6.27)の翻訳例から」『アジア文化研究所研究年報』2013年 (48), 2014年 2月
- (2015) 「日中翻訳について——『天声人語』(2013.1.14)の中国訳から」『日本語教育における日中対照研究・漢字教育研究』駿河台出版
- (2017) a 「日中翻訳——『天声人語』(2006.3.10)」『アジア文化研究所研究年報』2016年 (51), 2017年 2月
- (2017) b 「日中翻訳の心得——『天声人語』の中国語訳を例に」『中国言語文化学研究』(第6号), 2017年 3月
- (2017) c 「日中翻訳——『天声人語』(2013.3.10)について」『高橋弥守彦教授古希記念論文集』, 2017年 3月
- (2017) d 「日中翻訳における文脈——『天声人語』の中国語訳から」『鈴木泰先生古希記念論文集』, 2017年 3月
- (2018) 「日中翻訳——『天声人語』(2014.3.7)」『経済論集』43, (2), 2018年 3月
- (2019) 「日中翻訳——『天声人語』(2014.2.26)の中国語訳について」『アジア文化研究所研究年報』2018年 (53), 2019年 2月

- (2019) 「日中翻訳——『天声人語』(2018.7.11)の中国語訳について」『日中言語対照研究論集』(21) 白帝社
- 続三義 (2000) 《日译汉教学小议——从教学实践谈起》『荒屋勸教授古希記念中国語論集』白帝社
- (2003) 《日汉翻译中的宏观把握》《日语研究》第1辑 商务印书馆
- (2004) a 《从日译汉角度看日语汉字及汉字词语的认知与表达》《政大日本研究》创刊号 台湾政治大学
- (2004) b 《日汉翻译中时间的认知与表达》《日语研究》第2辑 商务印书馆
- (2007) 《日译汉时的视角和文脉》《日语研究》第5辑 商务印书馆
- (2013) 《日中翻译——〈天声人语〉(2012.7.29)的汉语译文分析》『アジア文化研究所研究年報』2012年 (47), 2013年 2月
- (2015) a 《日汉翻译——〈天声人语〉(2013.5.29)的汉语译文分析》『アジア文化研究所研究年報』2014年 (49), 2015年 2月
- (2015) b 《关于日汉两语时间隐喻表达——以〈天声人语〉(2013.1.14)及其汉语译文为例》『日中言語対照研究論集』(17) 白帝社
- (2015) c 《日汉翻译——以〈天声人语〉(2009.02.05)为例》『経済論集』(41—1)
- (2017) 《日汉翻译——〈天声人语〉(2015.6.5)》《汉日对比研究论丛》, 8, 2017年 8月
- (2018) 《日汉翻译——以〈天声人语〉(1992.1.27)为例》『アジア文化研究所研究年報』2017年 (52), 2018年 2月

付録1, 「天声人語」(2017.08.07) 原文と「訳文」(2017.8.20 中文網)

スマホ・ゾンビに罰金	天声人语 勿成手机僵尸 罚款不留情
<p>ゾンビ映画の何が怖いと言えば、人間の姿をしているのに人間らしい思考も感情もないことだ。うつろな目をして集団で動き回る。そんな姿を連想するからだろう、「歩きスマホ」は英語で「スマートフォン・ゾンビ」と言うらしい▼さて、ゾンビたちを横断歩道から締め出す条例がハワイのホノルル市で制定された。10月下旬からは、スマホを使いながら横断すると15ドル(約1650円)~35ドルの罰金が科され、繰り返すと金額が上がる。画面に目を奪われて事故にあうのを防ぐためだ▼読書しながら歩く人は多くはないが、歩きスマホはあつという間に広がった。その行為を「非人類的」とまで言うのが作家の藤原智美(ともみ)さんである▼「人間は歩いているとき、周囲の状況に目を配り、頭の中ではさまざまな思いや考えをめぐらす」。そんな二足歩行を始めて以来のあり方が変わってしまったと、著書『スマホ断食』で述べる。社会がスマホ一辺倒になり、一人で考えることから遠ざかっていくと警告する▼どうすればいいか。藤原さんの提案は、3日間の「スマホ断ち」である。小さな機械に魂を奪われゾンビ化していないか、自分で確かめる機会となろう。3日は長すぎると感じるのは、すでに心が支配されているせいかな▼振り返ればテレビも漫画も、思考力を奪うと批判された歴史がある。スマホも心配しすぎだったということになるのかどうか。答えが出るのは、幼時から小さな画面に触れる世代が大人になるときだろうか。</p>	<p>说起僵尸电影哪里恐怖，莫过于那些酷似人类外形的生物却没有人类思想和感情。呆滞的眼神，成群结队地到处游荡。如此场景应该会让你联想到什么吧，“边走路边玩手机”的英文译法似乎就是“智能手机·僵尸”。</p> <p>且说，美国夏威夷火奴鲁鲁市已经制定出把僵尸们请出人行横道的条例法规。从10月下旬起，若要通过人行横道时使用智能手机，会被处以15美元(约合人民币100元)至35美元(约合人民币234元)的罚款。若反复出现该行为，罚款金额则会上涨。此举目的是为防止行人盯着手机屏幕而遭遇交通事故。</p> <p>一边读书一边走路的人尚不在多数，走路时玩手机却在顷刻之间扩散开来。作家藤原智美甚至用“非人类的”一词来形容这种现象。</p> <p>“人在走路时，眼睛会观察周围的情况，脑海中会随之浮现各种思绪和想法”。藤原在著作《智能手机绝食》(暂译，日文为：スマホ断食)中叙述道，这种自双脚站立行走以来的走路状态已经发生改变。并警告称，社会正偏向智能手机的一方，与独立思考渐行渐远。</p> <p>这该如何是好?藤原的提案是“断智能手机”3天。以此确认自己是否已经变成被小小机器夺走魂魄的僵尸。当感到3天太过漫长时，你的心智是否已经被其左右了呢?</p> <p>回顾历史，电视也好漫画也罢，都曾被批判会剥夺人类的思考能力。而现在的我们是否对智能手机表现地过分焦虑了呢?答案恐怕要等到自儿时起便触碰小小屏幕的一辈人，成长为大人后才能一见分晓吧。</p>

## 付録 2, 続訳案

### 对“僵尸手机”实施罚款

说起僵尸电影什么地方令人恐怖，莫过于它们长着人类的模样却没有人类所具有的思想和感情。眼神呆滞，结成一帮四处游荡。或许是出于对僵尸这一形象的联想，“边走边玩手机”在英文中被称为“智能手机·僵尸”。

据说美国夏威夷火奴鲁鲁市已经制定条例将把僵尸们驱逐出人行横道。从10月下旬起，若在通过人行横道时使用智能手机，将被处以15~35美元（约合人民币100~234元）罚款。若再犯，罚款金额则会加大。这是为防止人们只顾看手机而遭遇交通事故。

一边走路一边读书的人并不多，走路玩手机却在顷刻之间普及开来。对这一行为作家藤原智美甚至用“非人类的”一词来形容。

他在著作《断绝智能手机》中说，“人在走路时，会观察周围情况，并在头脑中进行各种思维和思考”。人类这一直立行走以来的状态变了。他警告说，社会正在脱离一个人独立思考，而全面倒向智能手机。

有无妙招？藤原建议“停用智能手机”3天。以自我确认是否已经被小小机器夺走魂魄而变成了一具僵尸。如果感到3天太过漫长，这或许说明你的心智已经被控制了。

回想起来，电视和漫画，也都曾被指责会夺走人们的思考能力。将来我们是否也会说现在对智能手机的担忧是杞人忧天呢？这一答案恐怕要等到自幼就触摸小小屏幕的这辈人，长大成人之后吧。

(研究員／経済学部国際経済学科教授)

## **Japanese-Chinese Translations: An example of the “Vox Populi, Vox Dei”(2017.08.07)**

Previously, various Chinese translations of the Asahi Shimbun column "Vox Populi, Vox Dei" have been discussed in this publication. This paper compares an August 20, 2017 Chinese translation with another one dating from August 07, 2017 about so-called “smartphone zombies”. Lexical issues such as the use of “哪里”, “酷似人类外形”, “生物”, “场景”, “英文译法”, “请出”, “反复出现该行为”, “多数”, “扩散”, “脑海”, “随之浮现”, “双脚站立行走”, “以此确认自己”, “回顾历史”, “剥夺” are discussed. Moreover, grammatical issues such as the particle “地”, and expressions of potentiality or reality are considered along with ways of expressing of action subjects and problems of sentence logic.